

地域連携による 鳥獣対策の新しい取り組み

若者につなぐ被害対策と地域資源の活用



長崎県諫早市の概要



平成17年3月1日
1市5町が合併

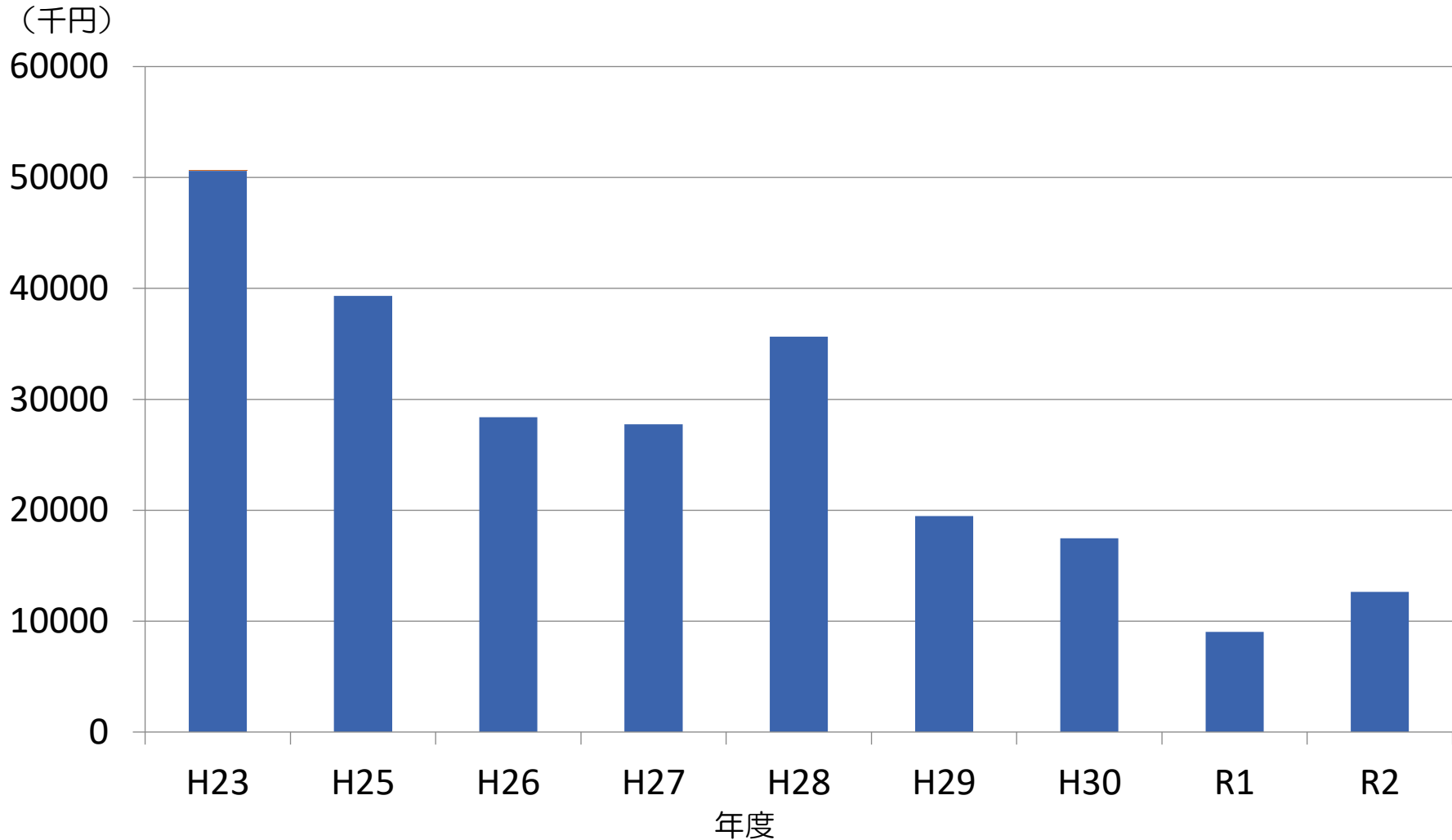
面積：341.79km²

人口：約13万4千人

世帯数：約5万3千世帯

県下最大の穀倉地帯である諫早平野やみかん産地を有し、丘陵地帯での露地野菜生産が盛ん

イノシシによる農作物被害額の推移



対策の推進によってイノシシ被害が減少

その要因は . . .

諫早市におけるイノシシ対策の歩み

① 防護柵設置の強い推進

- 自治会や農実行組合等ごとに説明会を実施し、要望や対策意欲を喚起した

② 地域ぐるみの捕獲体制の整備

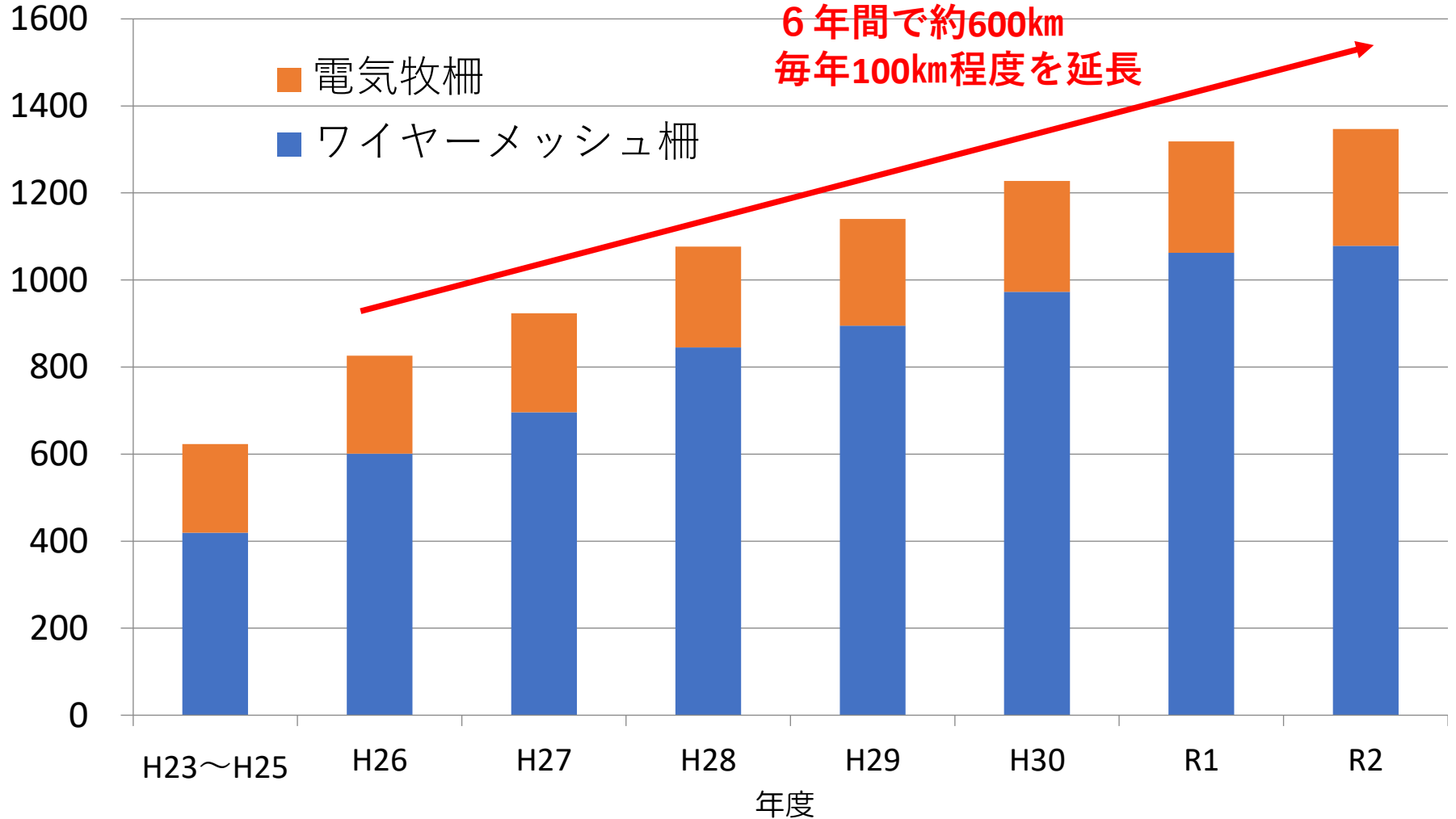
- 狩猟免許取得の推進に加えて、特区制度等を活用して猟友会と自治会による捕獲チーム『捕獲隊』による捕獲強化

③ ズビエ利用による捕獲個体の資源化

- 捕獲個体の処分負担の軽減と地域振興を目指した解体処理施設の設置

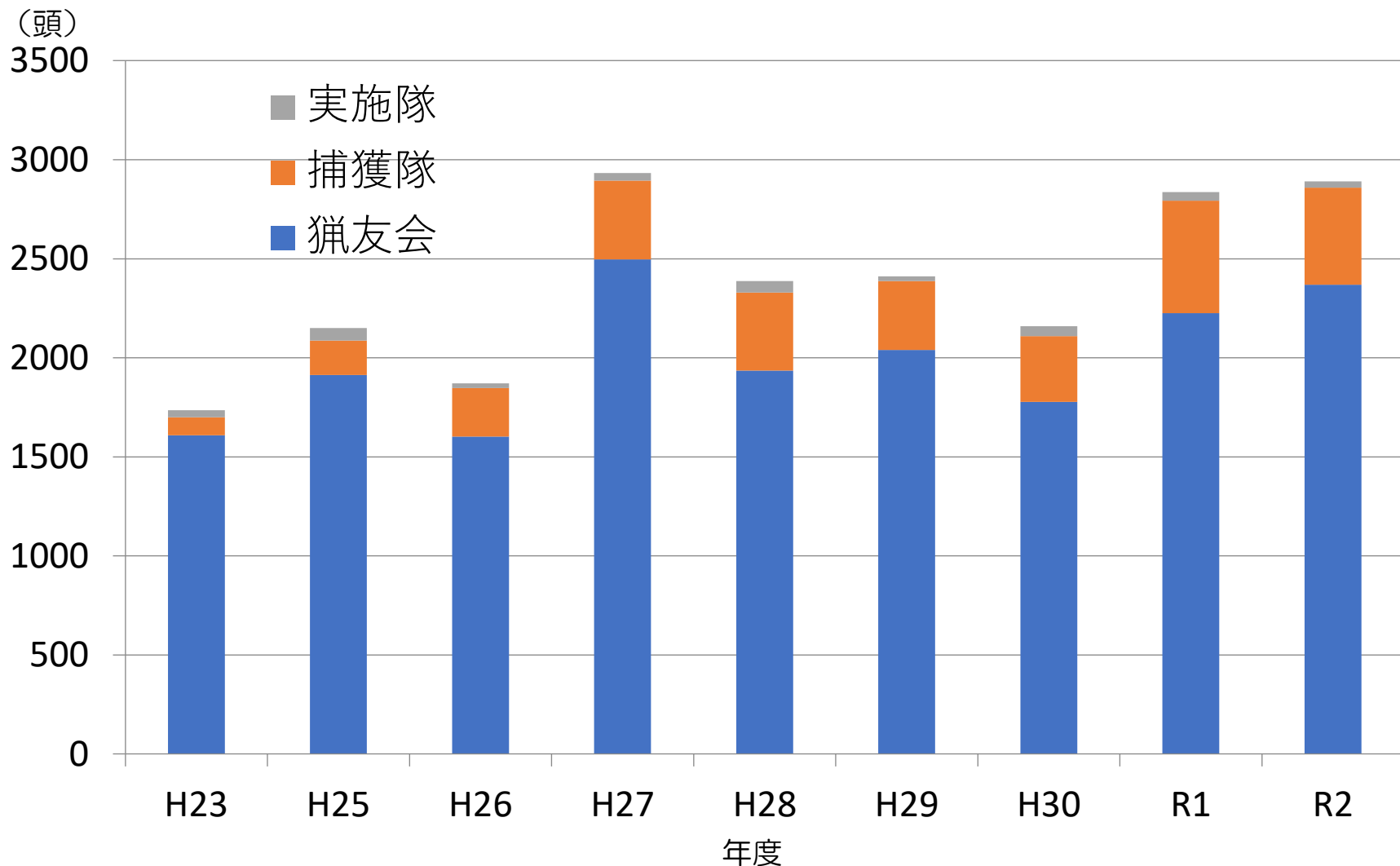
諫早市における防護柵設置距離

(累計距離：km)



地形や維持管理に考慮した防護柵の設置を推進

イノシシ捕獲数の推移（有害捕獲）



従来の捕獲体制に加え捕獲隊が捕獲強化に寄与

『捕獲隊』の設置による捕獲強化

捕獲隊とは・・・「有害鳥獣捕獲における狩猟免許を所持しない
従事者容認事業（旧1303特区制度）」
狩猟免許所持者がリーダーとなり、地域住民が
エサやりや見回りなど共同で捕獲作業ができる

捕獲隊設置の経緯 地域住民からの捕獲強化や平日対応の要望
猟友会からの負担軽減や捕獲作業への理解

捕獲隊設置のメリット 捕獲数の上積みが可能
住民と捕獲従事者の相互理解が進む
被害対策実施隊が指導的立場に回れる

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
捕獲隊数	28	28	43	45	45	45	48	49	49	50
捕獲数 (捕獲隊)	91	115	174	245	397	394	348	331	568	490
捕獲数計	1,753	1,976	2,107	1,863	2,894	2,338	2,390	2,166	2,848	2,893
捕獲隊寄与率	5.2%	5.8%	8.3%	13.2%	13.7%	16.9%	14.6%	15.3%	19.9%	16.9%

諫早猪処理販売センターの設置

施設の概要

設置年度：平成27年度

事業主体：
諫早市有害鳥獣防除対策協議会

施設構造：木造平屋建1棟
延床面積82.81m²

事業費：20,000千円

処理目標：年間250頭

管理運営主体：
諫早市鳥獣処理加工販売組合



施設におけるイノシシ受入れ等の増加

	H28	H29	H30	R1	R2
市域捕獲数	2,338	2,390	2,166	2,848	2,893
搬入頭数	46	216	222	186	381
処理頭数	21	89	139	169	364
搬入利用率	2.0%	9.0%	10.2%	6.5%	13.2%
解体利用率	45.7%	41.2%	62.8%	91.0%	93.1%

解体利用率が47.4ポイント増加

大学や飲食店などとの連携にも発展



大学との連携や学生との交流によって次のステップに

